景況レポート
No. 156
2026年７月～９月期

北見しんきん
〒090-8711　北見市大通東１丁目２番地１
電　話（代）　０１５７-２４-７５３１
URL：https://www.shinkin.co.jp/kitami/
本レポートはホームページでもご覧になれます。

景　気　動　向

道内景気

日本銀行札幌支店が10月１日に発表した９月の企業短期経済観測調査結果（短観）によりますと、道内企業の景況感を示す業況判断指数（ＤＩ：「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を引いた値）は全産業で『19』となり、前回の調査『15』から改善となっています。内訳では、製造業（前回９→今回13）、非製造業（前回18→今回20）とも改善でした。2026年12月までの全産業での先行き予測は11と、悪化の見通しです。

また10月１日に発表された道内の金融経済概況は次の通りです。道内の景気は、一部に弱めの動きがみられるが、緩やかに持ち直している。公共投資は、緩やかに増加している。個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、底堅く推移している。観光は、堅調に推移している。設備投資は、緩やかに増加している。輸出は、横ばい圏内の動きとなっている。住宅投資は、弱めの動きとなっている。生産は、横ばい圏内ながら、一部に弱めの動きがみられる。

【公共投資】　緩やかに増加している。
【個人消費】　百貨店、スーパー、コンビニエンスストアは、横ばい圏内の動きとなっている。ドラッグストアは、堅調に推移している。家電販売は、持ち直している。乗用車販売は、横ばい圏内の動きとなっている。サービス消費は、一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに増加している。
【観光】　堅調に推移している。
【新設住宅着工戸数】　持家、貸家は、弱めの動きとなっている。分譲は、横ばい圏内の動きとなっている。
【生産(鉱工業生産)】　横ばい圏内ながら、一部に弱めの動きがみられる。
【雇用・所得情勢】　緩やかに改善している。
【消費者物価(除く生鮮食品)】　２％台半ばのプラスとなっている 。
【企業倒産】　横ばい圏内の動きとなっている。

地区内景気

今回の当金庫の景気動向調査による北見地区の景況は、前年同期と比較したＤＩ値は、売上高が▲12と３ポイントの改善、収益は▲21と８ポイントの改善でした。直前３ヵ月と比較した今後３ヵ月の見通しでは、売上ＤＩ値は▲８と８ポイント悪化、収益ＤＩ値は▲21と４ポイント悪化の見通しとなっています。

特別調査　【中小企業における生成ＡＩの利活用について】

中小企業でも業務効率化や付加価値向上に向けた生成ＡＩ活用の重要性が高まっており、今回は、生成ＡＩの活用状況や課題、未活用の理由を尋ねました。

加えて、特別設問として中東情勢等による調達面への影響と必要な支援についても尋ねました。

【生成ＡＩ利活用の有無および利活用者】

「利活用している」との回答合計（28.7%）が全国水準（36.1%）を下回りました。内訳をみると、「主に経営者（個人事業主を含む）（13.2%）」、「主に従業員（9.4%）」、「全社的に利活用（6.1%）」の順に多くなっています。一方で、「利活用していない」は56.9%と過半数を占め、「わからない」は14.4%となりました。

【生成ＡＩの用途または関心のある用途】

「文章作成（メール・案内文・議事録）（30.4%）」が用途の中で最も多く、以下、「データ分析（売上・顧客動向等）（15.5%）」、「アイデア出し・経営戦略策定（13.3%）」、「販促文章の作成（ＳＮＳ投稿、チラシ文面等）（12.7%）」が続きました。一方、「利活用しておらず関心がない」は49.7%にのぼりました。

【生成ＡＩ利活用に際する業務上の課題】

「情報漏えい・セキュリティ面の不安（33.7%）」が最も多くなり、以下「出力内容の正確性への不安（18.8%）」、「推進できる人材がいない（16.6%）」、「業務上での活用方法が分からない（14.4%）」が続き、「特にない」は36.5%となりました。

【中東情勢の混迷等による欠品や納期遅れ等の発生状況および発生見込み】

直近（６か月程度）では「支障が生じている」との回答合計が63.5%となりました。今後についても「支障が生じる見込み」との回答合計が54.7%となりました。

【中東情勢の混迷等を受けて行政に求める支援策】

「一時支援金などの給付金（42.5%）」が最も多くなり、以下、「エネルギーの安定供給・料金対策（32.6%）」、「原材料・部材の調達支援（29.3%）」、「価格転嫁の円滑化支援（26.0%）」が続きました。

【貴社では、業務上で生成AI（ChatGPT、Gemini、Claude、DeepSeek等）を利活用していますか。利活用している場合は主にどのような方が使っていますか。1～5の中から1つ選んでお答えください。】

【利活用している】		《全国》
１．全社的に利活用	6.1%	9.6%
２．主に経営者（個人事業主を含む）	13.2%	15.4%
３．主に従業員	9.4%	11.1%
４．利活用していない	56.9%	52.7%
５．わからない	14.4%	11.3%

【貴社では、業務上で生成AIをどのような用途で利活用していますか。また、現時点で利活用していない場合は、どのような用途での利活用に関心がありますか。下記の1～0の中から当てはまるものについて3つ以内選んでお答えください。】

		《全国》
１．文章作成（メール・案内文・議事録）	30.4%	36.0%
２．問合せ対応の効率化（チャット対応、FAQ等）	8.3%	9.7%
３．販促文章の作成（SNS投稿、チラシ文面等）	12.7%	13.5%
４．経理事務作業の効率化（請求書の整理等）	7.7%	15.3%
５．社内情報検索・マニュアル化	3.3%	70.0%
６．採用業務の効率化（求人票作成等）	4.4%	3.6%
７．データ分析（売上・顧客動向等）	15.5%	18.3%
８．アイデア出し・経営戦略策定	13.3%	15.6%
９．その他	2.2%	2.4%
０．利活用しておらず関心がない	49.7%	38.4%

【貴社が生成AIを業務で利活用する上で、課題となる点は何ですか。もし現時点で利活用していない場合は、その理由は何ですか。以下の1～0の中から当てはまるものについて3つ以内で選んでお答えください。】

		《全国》
１．情報漏えい・セキュリティ面の不安	33.7%	35.5%
２．利用に際する社内ルールの未整備	13.3%	18.2%
３．出力内容の正確性への不安	18.8%	18.0%
４．業務上での活用方法が分からない	14.4%	14.0%
５．操作方法・使い方への不安	11.1%	15.2%
６．効果検証・運用の時間が確保できない	3.9%	7.5%
７．費用対効果が不明	11.1%	12.0%
８．推進できる人材がいない	16.6%	16.9%
９．その他	1.7%	0.5%
０．特にない	36.5%	26.6%

特別設問　『中東情勢による影響』

【2026年春以降の中東情勢の混迷等により、貴社では原材料や商品等の調達（仕入れ）に際して、欠品や納期遅れ等、価格面以外での支障が生じていますか。直近（6か月程度）の状況について1～5の中から、今後（6か月程度）の見通しについて6～0の中から最も当てはまるものをそれぞれ1つずつ選んでお答えください。】

【直近】		《全国》
１．かなり支障が生じている	16.0%	10.0%
２．一部支障が生じている	47.5%	48.5%
３．あまり支障は生じていない	23.8%	23.6%
４．特に問題なく通常どおり	6.1%	11.3%
５．該当なし・分からない	6.6%	6.7%
【今後】		
６．かなり支障が生じる見込み	12.2%	7.8%
７．一部支障が生じる見込み	42.5%	45.3%
８．あまり支障は生じない見込み	27.6%	25.1%
９．特に問題なく通常どおりの見込み	7.2%	11.9%
０．該当なし・分からない	10.5%	9.9%

【中東情勢の混迷等により、原油価格等の高騰や、原材料・商品等の調達が困難な状況が生じています。これを受けて、今後、行政に求める支援策は何ですか。以下の1～0の中から当てはまるものについて3つ以内で選んでお答えください。】

		《全国》
１．一時支援金などの給付金	42.5%	29.9%
２．資金繰り支援の拡充	16.6%	23.5%
３．価格転嫁の円滑化支援	26.0%	26.7%
４．原材料・部材の調達支援	29.3%	29.1%
５．エネルギーの安定供給・料金対策	32.6%	26.9%
６．省エネ・効率化の支援	6.6%	9.1%
７．情報提供・相談窓口の強化	6.1%	7.7%
８．買占めや不当な値上げへの監視強化	20.4%	20.7%
９．その他	1.1%	0.6%
０．特になし	12.7%	14.8%

売　　上

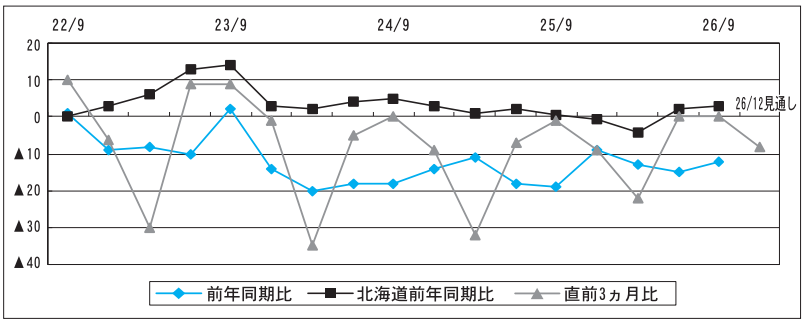
調査対象先企業181社の売上を総体的にみますと、前年同期（25年７～９月）と比較して「増加」した先25%、「変らず」の先38%、「減少」した先37%で、そのＤＩ値（増加割合－減少割合）は▲12となり、前回調査より３ポイント改善しました。

業種別でみますと、製造業、小売業は改善、卸売業、建設業、サービス業は悪化となっています。

３ヵ月毎の比較では横ばい、今後３ヵ月は悪化の見込みです。

グラフに掲載している北海道の「前年同期比」のデータは、本調査と同時に行った全道の信用金庫によるお取引先を対象とした調査結果のもので、１ページ目の日銀短観とは別の調査によるものです。

売上　　ＤＩ値図表



調査時期	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9	25/12	26/3	26/6	26/9
前年同期比	1	▲ 9	▲ 8	▲ 10	2	▲ 14	▲ 20	▲ 18	▲ 18	▲ 14	▲ 11	▲ 18	▲ 19	▲ 9	▲ 13	▲ 15	▲ 12

※前年同期比の来期見通しは調査しておりません。

調査時期	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9	25/12	26/3	26/6	26/9
北海道前年同期比	0	3	6	13	14	3	2	4	5	3	1	2	1	▲ 1	▲ 4	2	3

※前年同期比の来期見通しは調査しておりません。

調査時期	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9	25/12	26/3	26/6	26/9	26/12見通し
直前３ヵ月比	10	▲ 6	▲ 30	9	9	▲ 1	▲ 35	▲ 5	0	▲ 9	▲ 32	▲ 7	▲ 1	▲ 9	▲ 22	0	0	▲ 8

収　　益

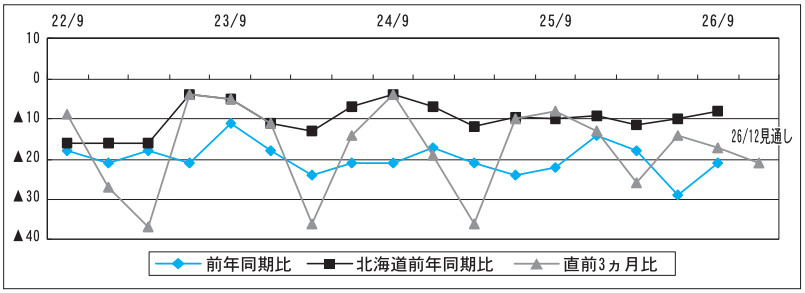
調査対象先企業181社の収益を総体的にみますと、前年同期（25年７～９月）と比較して「増加」した先18%、「変らず」の先43%、「減少」した先39%で、そのＤＩ値（増加割合－減少割合）は▲21となり、前回調査より８ポイント改善しました。

業種別でみますと、小売業、サービス業は改善、製造業、卸売業、建設業は悪化となっています。

３ヵ月毎の比較では悪化、今後３ヵ月は悪化の見込みです。

グラフに掲載している北海道の「前年同期比」のデータは、本調査と同時に行った全道の信用金庫によるお取引先を対象とした調査結果のもので、１ページ目の日銀短観とは別の調査によるものです。

収益　　ＤＩ値図表



調査時期	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9	25/12	26/3	26/6	26/9
前年同期比	▲ 18	▲ 21	▲ 18	▲ 21	▲ 11	▲ 18	▲ 24	▲ 21	▲ 21	▲ 17	▲ 21	▲ 24	▲ 22	▲ 14	▲ 18	▲ 29	▲ 21

※前年同期比の来期見通しは調査しておりません。

調査時期	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9	25/12	26/3	26/6	26/9
北海道前年同期比	▲ 16	▲ 16	▲ 16	▲ 4	▲ 5	▲ 11	▲ 13	▲ 7	▲ 4	▲ 7	▲ 12	▲ 9	▲ 10	▲ 9	▲ 12	▲ 10	▲ 8

※前年同期比の来期見通しは調査しておりません。

調査時期	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9	25/12	26/3	26/6	26/9	26/12見通し
直前３ヵ月比	▲ 9	▲ 27	▲ 37	▲ 4	▲ 5	▲ 11	▲ 36	▲ 14	▲ 4	▲ 19	▲ 36	▲ 10	▲ 8	▲ 13	▲ 26	▲ 14	▲ 17	▲ 21

製 造 業　　調査企業３０社

概　況

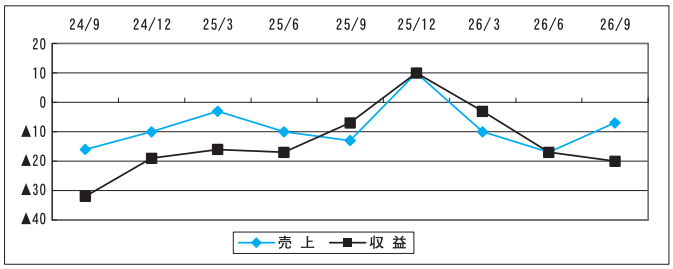
調査先製造業全体の業況を前年同期（25年７～９月）と比較してみますと、売上で「増加」した先30%、「変らず」の先33%、「減少」した先37%で、そのＤＩ値（増加割合－減少割合）は▲７となり、前回調査より10ポイント改善しました。

収益は「増加」した先27%、「変らず」の先26%、「減少」した先47%で、そのＤＩ値（増加割合－減少割合）は▲20となり、前回調査より3ポイント悪化しました。

調査回答数（前年同期比）

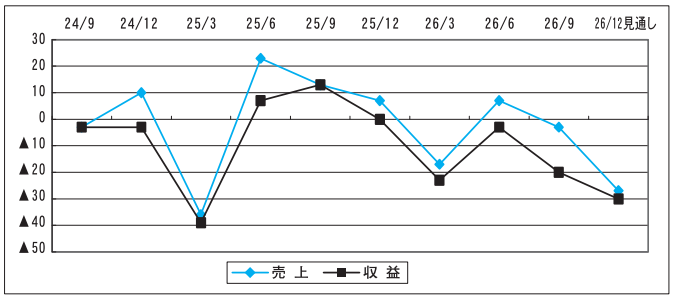
		増加	変らず	減少	ＤＩ値
売上	前回（26/６）	7	11	12	▲ 17
	今回（26/９）	9	10	11	▲ 7
収益	前回（26/６）	7	11	12	▲ 17
	今回（26/９）	8	8	14	▲ 20

前年同期比　　ＤＩ値図表



調査時期	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9	25/12	26/3	26/6	26/9
売　上	▲ 16	▲ 10	▲ 3	▲ 10	▲ 13	10	▲ 10	▲ 17	▲ 7
収　益	▲ 32	▲ 19	▲ 16	▲ 17	▲ 7	10	▲ 3	▲ 17	▲ 20

直前３ヵ月比　　ＤＩ値図表



調査時期	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9	25/12	26/3	26/6	26/9	26/12見通し
売　上	▲ 3	10	▲36	23	13	7	▲17	7	▲ 3	▲ 27
収　益	▲ 3	▲ 3	▲39	7	13	0	▲23	▲ 3	▲20	▲ 30

動　向

【前年同期との比較】

売上は改善、収益は悪化しました。

内訳をみますと、食料品、建設関連は改善、木材製品が悪化となっています。

【直前３ヵ月との比較】

売上、収益とも悪化しました。

【今後３ヵ月の見通し】

売上、収益とも悪化の見通しです。

調査員のコメントには、「地域の全体的な業況に左右される感があり、自社の業況も改善していない」、「人材不足に対する機械化が検討課題」、「天候不良の影響で業況がふるわない」といったものがありました。

直前３ヵ月比調査の業種別状況（ＤＩ値による）　（%）

項　目		全　体	食料品	木材製品	建設関連	その他
売上額	４月～６月と比較	▲ 3	0	▲ 25	38	▲ 33
	10月～12月の見通し	▲ 27	▲ 25	▲ 50	▲ 13	▲ 16
収　益	４月～６月と比較	▲ 20	0	▲ 38	0	▲ 50
	10月～12月の見通し	▲ 30	▲ 38	▲ 50	▲ 12	▲ 16
販売価格	４月～６月と比較	23	13	13	38	33
	10月～12月の見通し	10	13	0	12	17
原材料価格	４月～６月と比較	43	50	50	50	17
	10月～12月の見通し	30	50	25	25	17
原材料在庫	４月～６月と比較	0	0	▲ 13	13	0
	10月～12月の見通し	▲ 6	0	▲ 25	0	0
資金繰	４月～６月と比較	▲ 20	▲ 13	▲ 38	▲ 25	0
	10月～12月の見通し	▲ 20	0	▲ 63	▲ 13	0

概　況

調査先卸売業全体の業況を前年同期（25年７～９月）と比較してみますと、売上で「増加」した先23%、「変らず」の先40%、「減少」した先37%で、そのＤＩ値（増加割合－減少割合）は▲14となり、前回調査より９ポイント悪化しました。

収益は「増加」した先23%、「変らず」の先40%、「減少」した先37%で、そのＤＩ値（増加割合－減少割合）は▲14となり、前回調査より５ポイント悪化しました。

販売価格は「増加」した先68%、「変らず」の先23%、「減少」した先９%で、そのＤＩ値（増加割合－減少割合）は59となり、前回調査より14ポイント下降しました。

調査回答数（前年同期比）

		増加	変らず	減少	ＤＩ値
売上	前回（26/６）	4	13	5	▲ 5
	今回（26/９）	5	9	8	▲ 14
収益	前回（26/６）	4	12	6	▲ 9
	今回（26/９）	5	9	8	▲ 14
販売価格	前回（26/６）	16	6	0	73
	今回（26/９）	15	5	2	59

動　向

【前年同期との比較】

売上、収益、販売価格とも悪化しました。内訳をみますと、改善した業種は無く、全般的に横ばいもしくは悪化となっています。

【直前３ヵ月との比較】

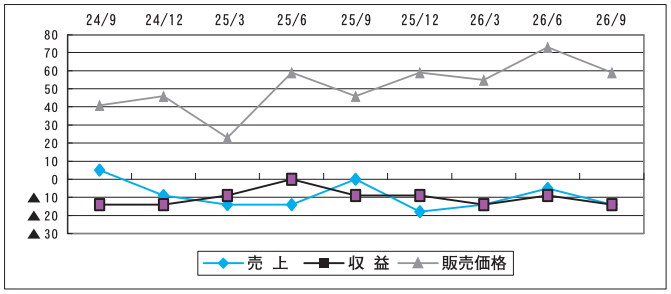
売上、収益は悪化、販売価格は横ばいとなっています。

【今後３ヵ月の見通し】

売上は改善、収益は横ばい、販売価格は下降の見通しです。

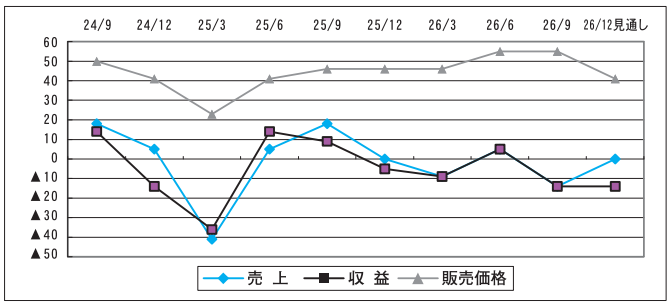
調査員のコメントには、「人件費を含めた固定費が増加しているため収益確保が課題」、「働き手の高齢化が今後問題になると予想している」といったものがありました。

前年同期比　　ＤＩ値図表



調査時期	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9	25/12	26/3	26/6	26/9
売　上	5	▲ 9	▲ 14	▲ 14	0	▲ 18	▲ 14	▲ 5	▲ 14
収　益	▲ 14	▲ 14	▲ 9	0	▲ 9	▲ 9	▲ 14	▲ 9	▲ 14
販売価格	41	46	23	59	46	59	55	73	59

直前３ヵ月比　　ＤＩ値図表



調査時期	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9	25/12	26/3	26/6	26/9	26/12見通し
売　上	18	5	▲41	5	18	0	▲ 9	5	▲14	0
収　益	14	▲14	▲36	14	9	▲ 5	▲ 9	5	▲14	▲ 14
販売価格	50	41	23	41	46	46	46	55	55	41

直前３ヵ月比調査の業種別状況（ＤＩ値による）　（%）

項　目		全　体	食料品	建設関連	その他
売上額	4月～6月と比較	▲ 14	0	▲ 45	14
	10月～12月の見通し	0	17	0	▲ 14
収　益	4月～6月と比較	▲ 14	▲ 33	▲ 11	0
	10月～12月の見通し	▲ 14	17	▲ 11	▲ 43
販売価格	4月～6月と比較	55	17	67	71
	10月～12月の見通し	41	0	56	57
仕入価格	4月～6月と比較	68	33	78	86
	10月～12月の見通し	55	33	56	71
在　庫	4月～6月と比較	18	17	33	0
	10月～12月の見通し	5	0	11	0
資金繰	4月～6月と比較	▲ 23	▲ 17	▲ 33	▲ 14
	10月～12月の見通し	▲ 23	▲ 17	▲ 33	▲ 14

概　況

調査先小売業全体の業況を前年同期（25年７～９月）と比較してみますと、売上で「増加」した先34%、「変らず」の先32%、「減少」した先34%で、そのＤＩ値（増加割合－減少割合）は０となり、前回調査より27ポイント改善しました。

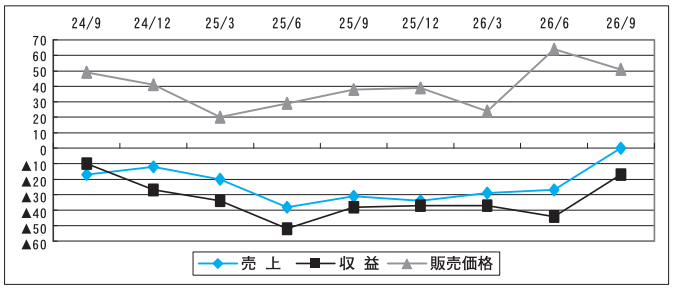
収益は「増加」した先20%、「変らず」の先43%、「減少」した先37%で、そのＤＩ値（増加割合－減少割合）は▲17となり、前回調査より27ポイント改善しました。

販売価格は「増加」した先51%、「変らず」の先49%、「減少」した先０%で、そのＤＩ値（増加割合－減少割合）は51となり、前回調査より13ポイント下降しました。

調査回答数（前年同期比）

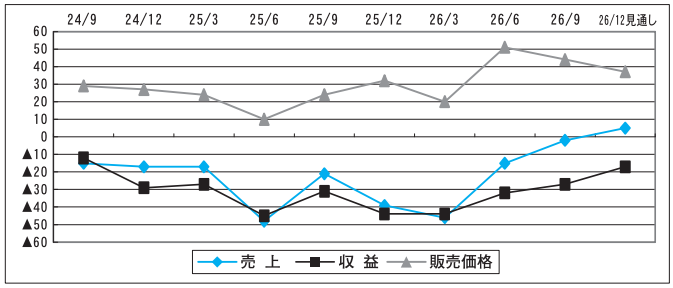
		増加	変らず	減少	ＤＩ値
売上	前回（26/６）	8	14	19	▲ 27
	今回（26/９）	14	13	14	0
収益	前回（26/６）	6	11	24	▲ 44
	今回（26/９）	8	18	15	▲ 17
販売価格	前回（26/６）	27	13	1	64
	今回（26/９）	21	20	0	51

前年同期比　　ＤＩ値図表



調査時期	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9	25/12	26/3	26/6	26/9
売　上	▲ 17	▲ 12	▲ 20	▲ 38	▲ 31	▲ 34	▲ 29	▲ 27	0
収　益	▲ 10	▲ 27	▲ 34	▲ 52	▲ 38	▲ 37	▲ 37	▲ 44	▲ 17
販売価格	49	41	20	29	38	39	24	64	51

直前３ヵ月比　　ＤＩ値図表



調査時期	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9	25/12	26/3	26/6	26/9	26/12見通し
売　上	▲15	▲17	▲17	▲48	▲21	▲39	▲46	▲15	▲ 2	5
収　益	▲12	▲29	▲27	▲45	▲31	▲44	▲44	▲32	▲27	▲ 17
販売価格	29	27	24	10	24	32	20	51	44	37

動　向

【前年同期との比較】

売上、収益は改善、販売価格は下降しました。

内訳をみますと、全業種において売上・収益とも改善、販売価格は衣料品が上昇、食料品、その他が下降となっています。

【直前３ヵ月との比較】

売上、収益は改善、販売価格は下降しました。

【今後３ヵ月の見通し】

売上、収益は改善、販売価格は下降の見通しです。

調査員のコメントには、「ＥＣが拡充しており来店が大幅減少」、「原材料の価格高騰が今後の不安要素である」、「原価高騰を価格に転嫁できており、売上、利益とも好調」などがありました。

直前３ヵ月比調査の業種別状況（ＤＩ値による）　（%）

項　目		全　体	衣料品	食料品	その他
売上額	４月～６月と比較	▲ 2	▲ 20	5	▲ 6
	10月～12月の見通し	5	0	0	12
収　益	４月～６月と比較	▲ 27	▲ 40	▲ 37	▲ 12
	10月～12月の見通し	▲ 17	▲ 40	▲ 32	6
販売価格	４月～６月と比較	44	0	63	35
	10月～12月の見通し	37	40	42	29
仕入価格	４月～６月と比較	56	0	84	41
	10月～12月の見通し	54	0	68	53
在　庫	４月～６月と比較	17	▲ 20	21	24
	10月～12月の見通し	10	▲ 40	16	18
資金繰	４月～６月と比較	▲ 27	▲ 60	▲ 32	▲ 12
	10月～12月の見通し	▲ 29	▲ 60	▲ 42	▲ 6

建 設 業　　調査企業３５社

概　況

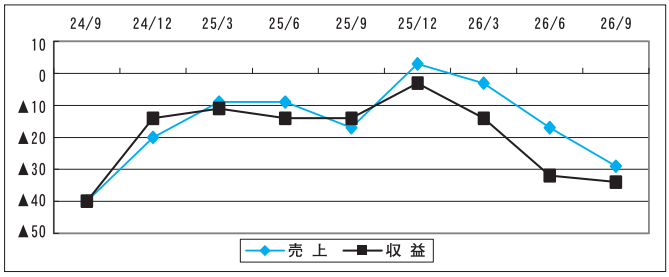
調査先建設業全体の業況を前年同期（25年７～９月）と比較してみますと、売上で「増加」した先８％、「変らず」の先55％、「減少」した先37％で、そのＤＩ値（増加割合－減少割合）は▲29となり、前回調査より12ポイント悪化しました。

収益は「増加」した先６％､「変らず」の先54％､「減少」した先40％で、そのＤＩ値（増加割合－減少割合）は▲34となり、前回調査より２ポイント悪化しました。

調査回答数（前年同期比）

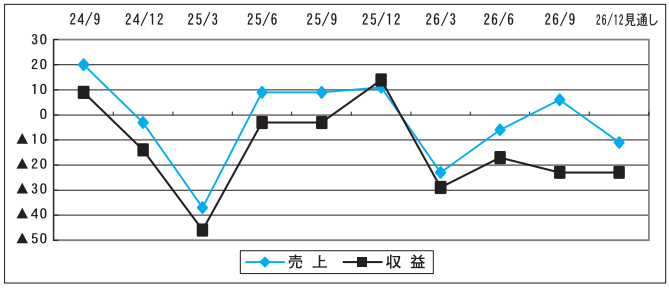
		増加	変らず	減少	ＤＩ値
売上	前回（26/６）	8	13	14	▲ 17
	今回（26/９）	3	19	13	▲ 29
収益	前回（26/６）	4	16	15	▲ 32
	今回（26/９）	2	19	14	▲ 34

前年同期比　　ＤＩ値図表



調査時期	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9	25/12	26/3	26/6	26/9
売　上	▲ 40	▲ 20	▲ 9	▲ 9	▲ 17	3	▲ 3	▲ 17	▲ 29
収　益	▲ 40	▲ 14	▲ 11	▲ 14	▲ 14	▲ 3	▲ 14	▲ 32	▲ 34

直前３ヵ月比　　ＤＩ値図表



調査時期	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9	25/12	26/3	26/6	26/9	26/12見通し
売　上	20	▲ 3	▲37	9	9	11	▲23	▲ 6	6	▲ 11
収　益	9	▲14	▲46	▲ 3	▲ 3	14	▲29	▲17	▲23	▲ 23

動　向

【前年同期との比較】

売上、収益とも悪化しました。

内訳のＤＩ値の推移は以下のようになっています。

・土木売上：前回± 0→今回± 0
・　同 収益：前回▲29→今回▲14
・建築売上：前回▲44→今回▲44
・　同 収益：前回▲50→今回▲50

【直前３ヵ月との比較】

売上は改善、収益は悪化しました。

【今後３ヵ月の見通し】

売上は悪化、収益は横ばいの見通しです。

調査員のコメントには、「公共工事を含め大口工事が少なく例年を下回る見通し」､「中東情勢の影響で材料費高騰や工期の長期化が発生」､「販売価格高騰により購買意欲の低下が見られる」といったものがありました。

直前３ヵ月比調査の業種別状況（ＤＩ値による）　（%）

項　目		全　体	土　木	建　築	その他
売上額	４月～６月と比較	6	22	▲ 19	40
	10月～12月の見通し	▲ 11	▲ 7	0	▲ 60
施工高	４月～６月と比較	3	14	▲ 13	20
	10月～12月の見通し	▲ 6	▲ 14	6	▲ 20
収　益	４月～６月と比較	▲ 23	▲ 7	▲ 50	20
	10月～12月の見通し	▲ 23	▲ 14	▲ 25	▲ 40
請負価格	４月～６月と比較	26	14	38	20
	10月～12月の見通し	23	14	38	0
材料価格	４月～６月と比較	71	57	88	60
	10月～12月の見通し	63	50	81	40
在　庫	４月～６月と比較	▲ 3	▲ 7	0	0
	10月～12月の見通し	▲ 3	▲ 7	0	0
資金繰	４月～６月と比較	▲ 9	0	▲ 13	▲ 20
	10月～12月の見通し	▲ 11	▲ 7	▲ 13	▲ 20

概　況

調査先サービス業全体の業況を前年同期（25年７～９月）と比較してみますと、売上で「増加」した先27%、「変らず」の先35%、「減少」した先38%で、そのＤＩ値（増加割合－減少割合）は▲11となり、前回調査より３ポイント悪化しました。

収益は「増加」した先19%、「変らず」の先45%、「減少」した先36%で、そのＤＩ値（増加割合－減少割合）は▲17となり、前回調査より15ポイント改善しました。

調査回答数（前年同期比）

		増加	変らず	減少	ＤＩ値
売上	前回（26/６）	15	19	19	▲ 8
	今回（26/９）	14	19	20	▲ 11
収益	前回（26/６）	6	24	23	▲ 32
	今回（26/９）	10	24	19	▲ 17

動　向

【前年同期との比較】

売上は悪化、収益は改善しました。

内訳をみますと、理容美容の売上・収益は改善しましたが、車両関係、その他の売上は悪化、収益は改善しました。

【直前３ヵ月との比較】

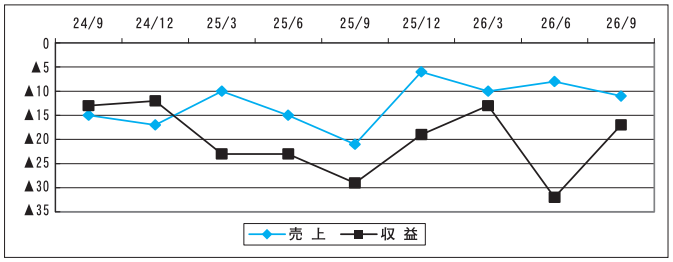
売上は悪化、収益は改善しました。

【今後３ヵ月の見通し】

売上、収益とも悪化の見通しです。

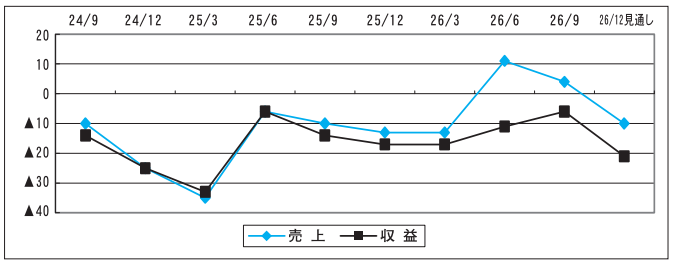
調査員のコメントには、「物価高騰により設備投資が高額なため、補助金の充実を要望している」、「飲食業における生成ＡＩの活用法が見いだせていない」、「サービス内容について他社との差別化を図っており、新規顧客が増加している」といったものがありました。

前年同期比　　ＤＩ値図表



調査時期	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9	25/12	26/3	26/6	26/9
売　上	▲ 15	▲ 17	▲ 10	▲ 15	▲ 21	▲ 6	▲ 10	▲ 8	▲ 11
収　益	▲ 13	▲ 12	▲ 23	▲ 23	▲ 29	▲ 19	▲ 13	▲ 32	▲ 17

直前３ヵ月比　　ＤＩ値図表



調査時期	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9	25/12	26/3	26/6	26/9	26/12見通し
売　上	▲10	▲25	▲35	▲ 6	▲10	▲13	▲13	11	4	▲ 10
収　益	▲14	▲25	▲33	▲ 6	▲14	▲17	▲17	▲11	▲ 6	▲ 21

直前３ヵ月比調査の業種別状況（ＤＩ値による）　（%）

項　目		全　体	理容美容	車両関係	その他
売上額	４月～６月と比較	4	11	▲ 14	10
	10月～12月の見通し	▲ 10	0	▲ 7	▲ 13
収　益	４月～６月と比較	▲ 6	0	▲ 14	▲ 3
	10月～12月の見通し	▲ 21	▲ 11	▲ 7	▲ 30
料金価格	４月～６月と比較	34	11	50	33
	10月～12月の見通し	27	11	64	13
材料価格	４月～６月と比較	74	78	93	63
	10月～12月の見通し	70	78	93	57
資金繰	４月～６月と比較	▲ 13	0	▲ 7	▲ 20
	10月～12月の見通し	▲ 11	0	0	▲ 20

経営上の問題点・経営施策　　調査企業１８１社（複数回答）

経営上の問題点　【複数回答】

	1位	2位	3位
製　造　業	原材料高 56.7%	売上の停滞・減少 36.7%	利幅の縮小 33.3%
卸　売　業	売上の停滞・減少 45.5%	利幅の縮小 31.8%	仕入先からの値上げ要請 31.8%
小　売　業	売上の停滞・減少 51.2%	商圏人口の減少 31.7%	人件費の増加 26.8%
建　設　業	材料価格の上昇 74.3%	人手不足 57.1%	売上の停滞・減少 42.9%
サービス業	材料価格の上昇 49.1%	売上の停滞・減少 34.0%	人手不足 32.1%

経営施策　　【複数回答】

	1位	2位	3位
製　造　業	経費を節減する 50.0%	販路を広げる 40.0%	新製品・技術を開発する 33.3%
卸　売　業	経費を節減する 68.2%	情報力を強化する 63.6%	販路を広げる 54.5%
小　売　業	経費を節減する 61.0%	品揃えを改善する 31.7%	売れ筋商品を取扱う 29.3%
建　設　業	人材を確保する 62.9%	経費を節減する 48.6%	販路を広げる 42.9%
サービス業	経費を節減する 43.4%	人材を確保する 32.1%	販路を広げる 30.2%

【調査要領】

１．調 査 地 域　　北見地方１市４町（北見市、置戸町、訓子府町、美幌町、津別町）
２．調 査 時 点　　２０２６年　９月
　　２０２６年　７月～　９月期の実績および見込み
　　２０２６年１０月～１２月期の見通し
３．調査対象企業　　当金庫お取引先１８１社（任意抽出）
　　回答企業数　　１８１社
　　回　答　率　　１００％
４．調 査 方 法　　調査表による訪問聞き取り調査
　　調査表は信金中央金庫が実施する「全国中小企業景気動向調査」と同一のものを使用
５．業種別回答企業数

製　造　業	卸　売　業	小　売　業	建　設　業	サービス業	合　　計
３０	２２	４１	３５	５３	１８１

６．分 析 方 法
　各質問項目を１００分比に換算し、パーセント（％）数値による分析を行いました。また、好転か悪化の傾向をみる方法として、「増加割合－減少割合＝判断指数（ＤＩ値）」で分析を行いました。



オホーツク圏経済情勢報告(令和８年７月判断)概況

総括判断

前回（８年４月判断）	前回比較	今回(８年７月判断)
持ち直しつつある	⇨	**持ち直しつつある**

※判断の据え置きは、令和５年７月判断以降、**１３期連続**

各項目の判断

	前回（８年４月判断）	前回比較	今回(８年７月判断)
個人消費	物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	⇨	物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある
観　　光	回復している	⇨	回復している
雇　　用	緩やかに持ち直しつつある	⇨	緩やかに持ち直しつつある
公共事業	前年を上回る	↘	前年を下回る
住宅着工	前年を下回る	↗	前年を上回る

先行き

先行きについては、雇用・所得環境が改善する中で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待されるものの、中東情勢や金融資本市場の変動等の影響を引き続き注視する必要がある。

(注)８年７月判断は、前回４月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

北海道財務局北見出張所調べ